

139

是ハニ古聖藤名の片あは仕へ
中老ふくも當社をなき
御神子候く侍座る中ゆも
正月七の夕方川よりわあ葉を
摘み神前よりなぐ中ゆ今日に
あひあつわすは能き女もも小
申はきなけミ川へはりーい

とくく女ももふがけり川へ

出ももやうへ ツヤイ 尺波をば松乃

新なる吉野山我重にわ

雪なるす 大山よりまは乃雪

う小消ぶくに類ハ野也みみ葉

はずばゆもとや成ぬるむ思ひ

やはらうお を ぬのめ

あふ少はとくもづくなをまへ

類希氏のく巻雲みちなるあ

葉をば今幾日あうけまへ

春立と 下 ころもや三吉野の

山もふりくえ白雪乃芽え 三 福

うりな 三 な 三 なる

あまなる人にやうなる 三 能は

ツ
いつ成人もろろ 三吉野へ

清湯いりあ。ほろ申るり

ツ
何ろふろい 三吉野ろろ

社家乃人ぞお落人、よむ言傍

中いあまをにまろり、晁葉の

顔出、ろろろろろろろろ

わろ物やひろろろろろろ

ツ
何ろへ おろろろろろろ

おろろろろろろろろろろ

ねねぬをろろろろろろろ

ツ
あろろろろろろろろろろ

ねろろろろろろろろろろ

ろろろろろろろろろろろ

ろろろろろろろろろろろ

新へん 夕風万ふあゝ
うきあふふみえ乃路うきあひ
やう小夫さうわく
おろろーきさうーうり
帰るはひさ由城中さうわん
思ひふさよふ中いねと帰るて休
なまーくさうわうきさうーうる

早詞

かーきなあふはるるさうわ
帰るさうわ あめり様かあさう
なま河のほとろさうさうわん
あゝ女流さうわひさ晁葉の程
うなーくさうさう一日経ひん
花吊ひく新う新とさ吉登乃人
あゝ社家乃人ーに中さうはひ

ツ

ツ

にはうらもば
 ちさうもは思へたばまゝ
 かゝひもやまゝえんがさ
 通へるひもふくはる
 うらひもやだゝうら
 見よ一ひの花をまやら
 へるををく来ぬまは

上カニ

樓花よりあつたものをあ

下
一
一
一
中
二
三
四
五
六
七
八
九
十

その
の極
言

かきあへんと
あはれなる

氣ハソノ極ニ至ル

人表はまうひくふを名景

もろくも人跡を付ぬきしとて

來てはくは
河をり
けり

戸のせうへき刺官殿小仕へ
中ぎ一老也 刺官殿乃内内
人多た中も衣川の侍官後
まのくは侍中うさこー 十右衛門
通房ハあふふ乃は死骸ん終一
とわおそめりーきわほ新母
邪へ珠一義なるをー也乃老

ツ
に
よ
か
ん
え
ん

ぞう神ももう神よハがふ物哉
下ニハ我女なわー 比山を
比付中爰ふく控く神参るさそ
能ぬ思ひ乃後の袖 比きまり
那うーわりぬをけ終に申さん
ン流ー屋 ぬハ終中あさ
あーまけりや終も了流ん

隠がふ舞乃とをうへ有ーり
さひ哉アふ了はるる人ば
なれあふとふひやう

ツ
わーあー舞の雲束とて勝手乃
清前小柄ー也
冬何ころ 袴ハ精ぬ 水子
よ哉奴乃登の花はくー
是ハ

やふみりーなわーる
ひーたえもハ実ーる
あふ舞の衣裳乃ハ是を召替下
とくーはふひゆへ
舞を流舞るうは
久ー実所ーや我な
忘ぬんーる
おもな

思出乃 時もふくわ 都の
 下上 今見り 河乃が流
 女乃女と思ふ 川よも
 山陰のりも 蕨ふ枝り那
 下天 家子准せり 新院
 討手 芝あき 一は
 小船とわのれ 波色神崎より

押波　世にき　小減路心より
さし難風明て本此地につど
る天あと思ん人解なりそも
高　　ふりうろりと男をまゝす家
りるとなりわ　玄祖よ次方くに
るさるふは力となつて此山子
方の折ふは冬表はハ三吉野の

華み^ニ前^ハる^ニ下^ニし^ハも^ニも^ニ果^ニな^ハる^ニ
さ^ニふ^ハあ^ニに^ハも^ニを^ニ怒^ハふ^ニと^ハ
花^ニも^ハち^ハわ^ニば^ハい^ハ一^ニ栄^ハ一^ニ樂^ハ乃^ニ落^ハ
あ^ニう^ハわ^ニな^ハる^ハり^ハ青^ニを^ハと^ハく^ハま^ニこ^ハは^ニ
山^ニを^ハり^ハち^ハて^ハゆ^ニを^ハ上^ニ若^ハ湯^ニ見^ハ原^ニ乃^ハ
天^ニ皇^ハ大^ニ友^ハの^ハ皇^ニ子^ハに^ハな^ニう^ハり^ハ祈^ハて^ハ
は^ニ山^ハに^ハつ^ハ尺^ハま^ニず^ハひ^ハ雪^ニみ^ハ木^ニ信^ハを^ハ



通^ニ竹^ハひ^ハく^ハ赤^ニ根^ハ木^ニ乃^ハ空^ニ神^ハの^ハ宮^ニ津^ハ
西^ニ河^ハ乃^ハ津^ニぎ^ハ祈^ハく^ハう^ハ落^ニ起^ハり^ハお^ハち^ハ
う^ニも^ハ浪^ニハ^ハい^ハん^ハる^ハな^ニわ^ハま^ニう^ハも^ハ
三^ニ吉^ハ野^ハ乃^ハ新^ニす^ハ木^ニ信^ハ乃^ハ屯^ニ祈^ハ申^ハふ^ハ
あ^ニも^ハ大^ニ台^ハく^ハぬ^ニお^ハく^ハや^ニは^ハ農^ハな^ハと^ハ
さ^ニハ^ハり^ハま^ニり^ハふ^ハの^ハく^ハ祈^ニ月^ハハ^ハ膨^ハ
う^ニろ^ハあ^ニ哉^ハ足^ハり^ハ乃^ハ山^ニ深^ハく^ハ迷^ニひ^ハ

上
 下
 残月に見えし——もろ方子上小
 志く雲乃花を踏了いれあ——を
 懐きゆも子或の報も部なうて
 まり——き足り——登の山風
 う海都さも道手乃あやせと

福をのみ三吉登のおくぬるを
 急ぎ山詣か^{上の}う礼乃刃がうん
 まゝううを新朝よめ出さる
 福ハ舞乃上なわどもくし
 あま^しはばまもいぬ藤子福
 ぬくもまうめく者いひき
 時乃新哥志は座一^上志つる

志は神のたまはるゝわらあり
 ぞくふがけぞもるな
 思ひ人をたそし人もく
 ちもあうふ事ほども
 照乃れ川がうみ沈めあ残入
 志はめぬ武士乃物おもに
 浮世乃なみは遊ハ遊ありあ

下二、一、
松風、
下二、一、
花をひもく



